

栃木県農業試験場 ニュース

農業試験場のホームページ <http://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>

No.303 平成 24 年 9 月

トピックス

第 29 回農業試験場公開デーを開催しました！

8月25日、本館新築後初めての「公開デー」を開催しました。今年度は、「とちぎサイエンスらいおんプロジェクト（栃木県内の大学、試験研究機関、博物館、企業が参加し、科学に触れる感動を県民の皆さんにお届けするプロジェクト）」の一環としての開催となりました。毎年恒例の研究成果のパネルや実物の展示、試

食・体験コーナー、クイズラリー等のイベントの他、15名の研究員が15の研究成果等をリレー方式で発表する新企画「研究成果リレー発表」を行いました。1600名の方に御来場いただき、盛大な催しとすることができました。

(公開デー実行委員会)



田んぼの生き物探検隊



いちごのDNA抽出体験



麦わら細工教室



なしの皮むき競争



研究成果リレー発表



アレンジフラワーを作る花パフェ教室



昔ながらの「手かんな」による
かんぴょうむき体験



穴の中で土の断面が見られます

『いちごの新規参入等に関する参考資料』 をまとめました

いちご研究所では、県内で新規参入によりいちご栽培を始めた6戸の事例調査を行い、その結果を「就農までのチェックポイント」、「経営試算」、「調査先農家からのアドバイス」の3部構成にまとめ、『いちごの新規参入等に関する参考資料』を作成しました。

経営試算では、夫婦二人で栽培規模20aでスタートした場合の平均投資額として、パイプハウス690万円、井戸の掘削250万円に1年目の資材等の経費も含めて、約1,400万円が必要であることを示しました。

また、投資費用の全額を制度融資で借入しても、研修期間を含む2年間の生活費分、約600万円の用意がないと、期末現金がマイナスになることも明らかにしました。

なお、本資料については、いちご研究所のホームページからダウンロードが可能です。詳しくはそちらをご覧ください。

(*1 0年目期首現金6,000,000円-1年目期末現金888,200円=5,120,000)

(いちご研究所 企画調査担当)



写真 資料の表紙

表 手持現金600万円、資金1,460万円を借入れた場合の資金フロー

単位：円

項目		0年目 *1	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
期首現金 *2	A	6,000,000	3,750,000	888,200	2,021,800	2,141,900	2,560,000
借入金 *3	B	0	14,805,000	0	0	0	0
いちご所得	C	0	-1,801,800	2,893,800	3,140,800	3,438,800	4,044,800
減価償却積立	D	0	1,080,000	1,440,000	1,440,000	1,440,000	1,290,000
1年目経費分戻し	E		880,000				
施設整備費用	F	0	14,805,000	0	0	0	0
生活費	G	2,250,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000
借入金返済 *4	H	0	0	0	1,460,500	1,460,500	1,460,500
期末現金 *5	J	3,750,000	888,200	2,021,800	2,141,900	2,560,000	3,434,100

注 *1 0年目とは研修期間中(4~12月)の無収入期間を想定 *2 手持現金を600万円とする
*3 就農1年目に施設整備、作業庫、機械等の購入費1,460万円全額を資金借入 *4 資金は据置2年で以後10年間で均等返済
*5 $J = (A+B+C+D+E) - (F+G+H)$

成果の速報

にらの葉温が葉先枯れ発生に及ぼす影響

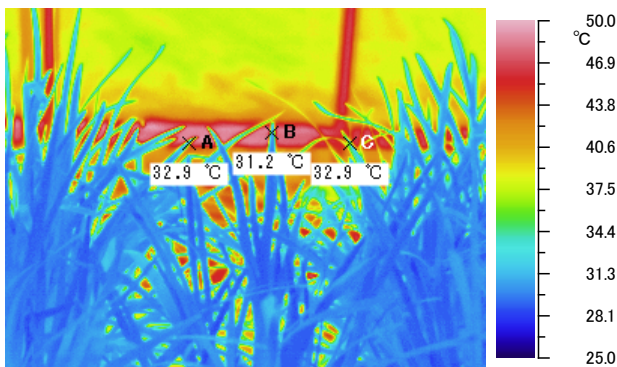
夏季におけるにらの葉先枯れの発生を遮光資材で軽減できないか検討しています。遮光資材はニラクール、ふあふあシルバーおよびダイオネットの3種類です。にら葉先の葉温が低いほど葉先枯れの発生は少なくなっています。現在、収量、品質の調査を続けています。

(野菜研究室)

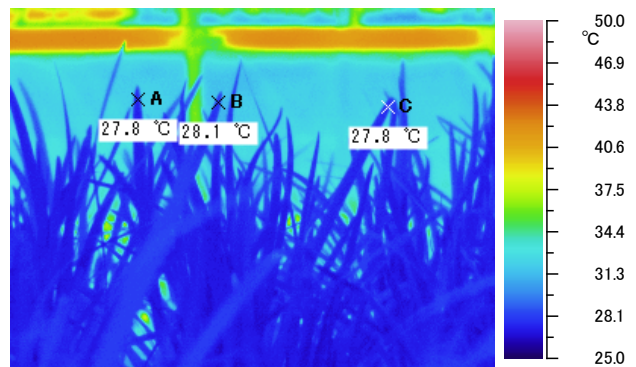
表1 にらの葉先枯れ発生率

遮光資材	葉先枯れ率 (%)
ニラクール	8.8
ふあふあシルバー	5.8
ダイオネット	5.7
無し	10.1

注. 収穫日・調査日：平成24年7月7日



遮光資材無し



ダイオネット使用

図. にら葉先の熱画像の様子 (平成24年7月5日晴天時撮影)

図中の数字はにらの葉先A、B、C各部位における葉温を示す。

新たな苗仕立て法でりんどうの生産性アップ

本県りんどう栽培の主力である極早生系品種は、茎立数の少なさや採花可能年数の短かさが、生産性の低さの最大の原因となっています。

そこで、育苗におけるセル成型トレイやペーパーポットの1穴当たりの苗仕立て株数を増やし、生産性を高める試験に取り組んでいます。

採花1年次の調査では、総茎数は苗仕立て株数が多いほど増加し、有効茎も多くなりますが、摘除する細い茎の発生も増える傾向となりました

(図1)。総採花本数は、育苗方式により差は見られますが、2株仕立は1株仕立てと比較し1.2~1.7倍、3株仕立は1.2~1.9倍となり、生産性が向上することが明らかになりました。しかし、70cm規格以上の上位等級品の発生に及ぼす影響は判然としませんでした(図2)。今後、2年次以降も調査を継続し、苗仕立て株数の違いによる安定生産への効果を確認していきます。
(花き研究室)

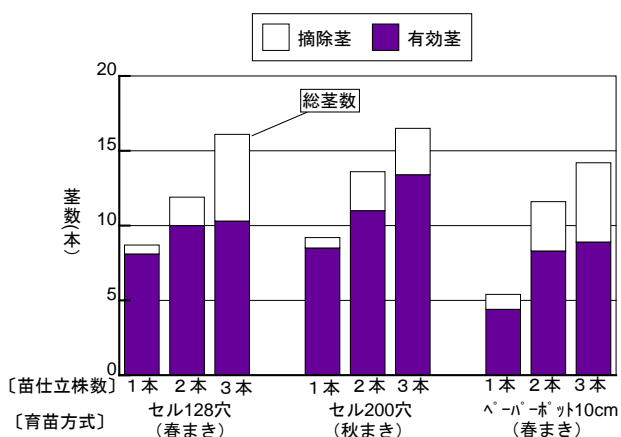


図1 採花1年次における茎立数

注. 有効茎は、地際部から30cmの部分の茎径が3.5mm以上の茎で、それに満たない茎は茎整理時に摘除。

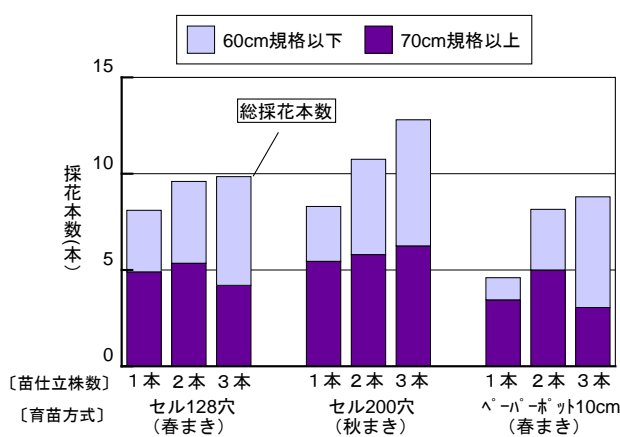


図2 採花1年次における採花本数調査

試験の紹介



写真 4月に定植した株の状況

いちご周年栽培下における四季成り性品種の栽培特性の解明

いちごの周年栽培や多年栽培、種子繁殖等、省力化並びに生産性の飛躍的向上を目指し、次世代型いちご品種を開発するための基礎調査として、四季成り性品種・系統の周年栽培下での生育特性を解明しています。

本年度は、定植時期を4月、6月、8月と異にして1年間栽培し、開花、着果状況、収量及び果実品質等を明らかにします。

(いちご研究所 開発研究室)

大豆新品種「里のほほえみ」のコンバイン収穫適期判定法の検討

大豆「タチナガハ」のコンバインによる収穫は、茎水分が40%以下になってから行います。早すぎると茎水分で豆の表面が汚れ、遅すぎると豆の表面にしわが寄ったり皮が切れるなど品質が低下します。

そこで、新品種「里のほほえみ」について、茎水分と大豆品質の関係を明らかにするとともに、適期収穫するための茎水分簡易判定法を開発しています。

に、適期収穫するための茎水分簡易判定法を開発しています。

(水稻研究室)





技術支援プログラム

水稲「とちぎの星」の生育状況を確認するため、8月9日に、河内、下都賀農業振興事務所管内生産ほ場にて現地検討会を行いました。約50名が参加しました。

今年度は、適正な施肥管理が行われ、倒伏の心配もなく順調に生育しています。

(水稲研究室)

写真 現地検討会の様子

● 技術支援プログラムの実施状況 (8月)

日	課題名	振興事務所名	備考
9	水稲「とちぎの星」現地検討会	河内、下都賀	水稲研究室
23	いちご「栃木i27号」の栽培技術確立	7農振	いちご研究所

● 主な来場者 (8月)

日	来場者	人数	目的・用件等	研究室等名
2	宇都宮大学農学部 柏寄先生	2	いちご試験研究打合せ	生物工学
6	食生活研究会「四季」	10	野菜としてのユウガオ栽培について	野菜
6	岩舟町静和梨生産出荷組合	10	なし新品種・根圏制御栽培について	果樹
9	名城大学農学部作物学研究室 道山 弘康教授	1	大麻の繊維組織撮影	水稲
9	全国大学農場協議会関東大会	43	いちご研究所の概要等	いちご研究所
9	メグリーン(株)	2	いちご栽培について	いちご研究所
17	県立高校花き担当教員	17	鉢物の簡易栄養診断の手法について	花き
20	スプレーぎく生産者外	21	スプレーぎくほ場セミナー	花き
21	山梨県南アルプス市議会	8	なし根圏制御栽培について	果樹
22	J Aなす野ニラ部会	10	にらの試験研究について	野菜
28	茨城県ブドウ生産者	2	シャインマスカット栽培技術について	果樹

● 報道関係 (8月)

日	件名	報道機関	備考
8	米粉の品種に関して	読売新聞	
14	花き新品種(きらきら星、るりおとめ)育成について	読売新聞	
29	パン用小麦「ゆめかおり」について	読売新聞	

● 主な会議・行事予定 (9月)

日	内容	場所
21	運営会議	原種農場

皆様の声をお聞かせ下さい!!

発行者 栃木県農業試験場長
 発行所 〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町 1,080
 Tel 028-665-1241 (代表)、Fax 028-665-1759
 MAIL nougyou-s@pref.tochigi.lg.jp

発行日 平成24年9月1日
 事務局 研究開発部
 Tel 028-665-1264 (直通)
 当ニュース記事の無断転載を禁止します。